

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101935
法人名	社会福祉法人やまなし勤労者福祉会
事業所名	グループホームわがや
所在地	〒 400-0866 甲府市若松町6-35 電話番号 055-223-8101 055-223-8106

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】平成20年10月1日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6	人			
職員数	8人	常勤	8人	非常勤	0人	常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	6 階建ての 1 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要 平成20年10月1日 現在

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲府共立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年11月1日

市街地に立地しているホームの周辺は、民家も多く、公園、大型店や専門店が並び、必要物品も求めやすく便利である。買物や散歩で地域の方と馴染みの関係が築かれている。時には、ご近所の方々が気軽に事業所に立ち寄って、一緒にお茶を飲んだり、地域の行事に誘ってもらったりしている。「日課のない暮らし」天気が良ければ一緒に洗濯干し、散歩する。利用者の体調、その時の天気やそこにあるものなど、ものの流れや、時間の流れに沿っての生活を支援するケアが実践されていた。敷地内の併設施設の行事への参加や生活の中で交流がされている。職員は内外部の研修会に積極的に参加し、質の向上をめざしている。日々利用者は職員に見守られ、表情は明るく和やかで、おしゃべりや笑いが絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者・職員全員で取り組んでいる。前回、椅子やテーブルが個人体形にあっていない、緊急避難用の車椅子の未設置があり、このことについては、職場会議で検討し、新規購入することができた。車椅子は室内用と室外用、各2台それぞれの場所に設置することができた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を実施する意義を理解し、全職員で確認している。自己評価については、全職員が実施している。評価結果は、全職員で共有し、更なる支援の向上を図っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会区長・民生委員・包括支援センター職員・全利用者家族の方々が入り、2か月に1回開催されている。ホームの活動報告を映像で渡し、自己・外部評価結果の行事予定、自治会への要望など、討議し、運営推進会議録として、記録されている。会議の意義や役割を充分理解して、積極的に参加してもらうよう投げかけを行っている。市町村担当者がメンバーとして参加し、協働関係がつけられることを期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日々の暮らしぶりを伝える「わがや便り」は、3か月に1回発行されており、家族に好評である。家族の訪問時は、意見等出しやすい雰囲気づくりに配慮されている。家族の要望で家族会が発足。今後の会の動向に期待したい。インシデント発生時、必ず記録し職員間で共有したり、家族に報告する仕組みづくりがされている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者や職員は、一緒に買物や外食を楽しんだり、地域の祭りに参加したりしている。分別作業をした有価物の回収作業では、地元の人々と交流の場になっている。「日課のない暮らし」天気が良ければ、一緒に洗濯干しや散歩する。入居者の体調、その時の天気やそこにあるものなど、ものの流れや、時間の流れに沿っての生活を支援するケアが実践されている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームわがや

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づいた、地域密着型サービス事業所としての、具体的なケアへの思いは、管理者及び職員より聞くことができたが、それらの思いを端的に示した理念は明文化されていない。	○	管理者と職員全員が共に確認し合えるように、また、外部に事業所の思いを伝える手段としても、事業所の思いを端的に示した理念を、明文化することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職場会議や新採用研修などの内部研修などにおいて、事業所の理念を職員に伝えている。職員もその理念を念頭において、日々のケアに取り込んでいこうという姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事である防災訓練や、夏祭り等に参加している。また、利用者が分別作業をした有価物の回収作業では、地元の人々と交流の場になっている。利用者も積極的に外出し、近隣住民と日常的なお付き合いができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者・職員全員で取り組んでいる。前回、椅子やテーブルが個人体形にあっていない、緊急避難用の車椅子の未設置については、職場会議で検討し、新規購入することができた。車椅子は室内用と室外用、各2台それぞれの場所に設置することができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族の出席で2か月に1度開催し、映像を通じて日々の様子を報告している。更に、評価の結果や取り組みの報告をしている。会議の報告は、その都度市役所に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回の指摘もあり、市町村とは常に連絡を取るようになっている。運営推進会議への出席についても開催の都度、連絡しているが、多忙を理由に出席していただけないが、実情を伝え助言を頂いている。	○	事業所の実情や、介護サービスの取り組みについて市町村担当者に対して、機会あるごとに情報提供を行い、運営の実態を共有し、協働関係を築いていく事が望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の受診時など、家族のホームの来訪は、頻繁にあり、その都度、日々の様子を伝えている。インシデント発生時には、必ず家族に報告している。年4回「わかまつ便り」を発行していたり、運営推進会議では、日々の様子を映像で、報告したりしている。金銭は預かっていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、意見や要望を気軽に話していただけるよう配慮している。家族の意見・要望ノートとして記され、職場会議で検討されている。検討中であった家族会が発足した。会では、職員は席をはずして、家族同士で、話し合い意見や苦情を出していただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が、対応することが重要と考えている。併設施設への異動等であるが、利用者への影響を最小限に抑えるため、異動や離職が重ならないようにしたり、利用者にも説明したりすることをマニュアル化している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は各段階に応じ、外部研修や法人内の研修に出席している。法人内では、研修委員会が設置されており、事例などの学習会を、月1回実施されており、ケア内容など共有している。グループホーム協会等の研修にも、順次参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加し、意見交換をしている。他施設からの研修の受け入れや見学などで交流し、ケア現場の生の経験は実りある学びの場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の利用者はいないが、いきなり利用するのではなく、アセスメントを兼ねて訪問している。本人が安心して利用できる為にも、法人内の施設デイサービスやショートステイを利用していただき、話をしたり、おやつを一緒にしたり、共に過ごすことで、他の利用者や職員や場の雰囲気に徐々に馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、それぞれ得意分野での役割を担当し、野菜づくり、料理、裁縫などを、職員は利用者から教わりながら作業をしている。特に男性職員は、食事づくりは初めてであり、知恵袋をいただき業務に活かしており、共に信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。担当制をとり、日々の関わりの中で、行動や表情から、一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めている。毎月職場会議を開催して全職員で把握し、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制でセンター方式を活用している。本人、家族との話し合いの中から、ケアの方向性を決めている。毎月のモニタリング時にプランを見直し、達成項目、サービスに変化あれば随時検討し、見直しされている。ケアプラン更新時は全職員が作成に関わっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別性を大切にし、毎月モニタリングを行い、全利用者を見直している。職員の日々の関わりの中で、状態が変化した時は、担当者会議を開催し、対応方法について確認しあい、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人からの様々な医療処置を受けたり、また、同建物内のデイサービスやショートステイとの交流が、気分転換となっている。また、日常的に買物と散歩を組み合わせ、利用者個人の買物時、お金に触れる機会とするなど、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用者は、家族による通院介助がルールとなっている。病状の経過は、口頭や文書で説明している。薬の確認や副作用などは、観察を怠らないよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の指針を家族に伝え、利用開始時やケアプランを作成する折、ターミナルに向け、その時々々の状況を考えながら、家族に寄り添う姿勢を伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内での会話に、トイレという言葉は使わず、さりげない言葉かけの誘導が定着している。日常のケアの中で、恥をかかせない介護に徹する事に重点を置き、職員の言葉づかい、語調、個人のプライドに配慮する姿勢が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候やその日の気分により、朝起きた様子で、予定を立てることが、利用者にも無理のないペースであり、そのような支援を心掛けている。外食や出前、デパートへの買物など希望に沿う取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立が、冷蔵庫の中の材料によって決まり、利用者への働きかけを第一に、下ごしらえや味付け、盛り付けと、見守りの姿勢で、心身の能力の維持や向上につなげている。刻み方やトロミなど、個人にあわせた配慮をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴希望者が4名、2日に1回が2名、夕方の時間帯が入浴となっている。入浴を拒む人への対応に苦慮しながらも、職員間で対応策を共有しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のテーブル拭き、洗濯物干し、食事の片付けなどの活動を、自発的、声かけ後、拒否、黙認のパターンに分け記録し、利用者の生活歴を踏まえ、活力を引き出している。また、与えるケアよりも職員と共に支えあう関係を大事にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ出し、洗濯物干し、回覧板などホーム外の仕事を、外気に触れる機会と捉えている。また近隣の商店や車で大型店へ買物に行くなど、外出支援にも取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はテラスと玄関にセンサーマットを置いたり、記録を取る時や台所仕事をしながら、利用者の出入りが観察できるため、施錠しないケアが実践されている。地域への働きかけなども、関係を深めるよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力を得た防災訓練は、これからの課題としているが、独自の避難訓練や避難経路の確認は実施されている。今年度、避難用の車椅子を内外に4台設置し、また日常の外出も、非常時のことを想定し、利用者の安全を守るよう実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の調理後の献立を書きとめ、後日管理栄養士に点検という形だが、カロリーや水分量を把握し記録している。体調を考えながら、好みの献立にしたり、外食などを取り入れ、食が進む工夫が日常的に支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りたてる物は置かれていないが、そこで暮らす利用者の、五感を刺激するお料理の匂いや、会話から生まれる笑い声など、家庭的な温もりが、大事にされている。新しいダイニングセットは、椅子の高さ調節と滑り止めの座面の工夫が施され、ヒヤリハット事例が改善されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも家庭的雰囲気が感じられ、畳と床の両タイプあり、家族の協力を得て、タンスやテレビ、机などが置かれ、壁には家族の写真が飾られている。		